

## 鳥学ニュース

No.23

1987年5月1日

## イギリスの古本屋あれこれ

森岡弘之

外国の出版物購入法の特集をやるので、「Wheldonとのつき合い」というような題で書け、とのことである。Wheldonというのは、フルネームをWheldon & Wesley Ltdといい、戦前からあるイギリスの博物学専門の古本屋のひとつである。古本屋といっても、新本も勿論取り扱い、世界中を相手にカタログ販売を行なっている。

このカタログは、博物学のなかでもとくに鳥の本が多い。先代のパートナーであったH.K. Swann (1871-1926) は立派な鳥学者であったから、それも当然であろう。彼は、Wetmore博士の協力によって死後に完成したA Monograph of the Birds of Prey (1924-45)をはじめ、何冊もの本をWheldonやWitherby社から出版している。Swann氏に限らず、イギリスの出版社や古本屋のパートナーには学者が多い。H.F. & G. WitherbyのパートナーであったH.F. Witherby (1873-1944) は、有名なThe Handbook of the British Birds (1938-41)の著者である。Wheldonの現会長のH.K. Swann氏の専門は聞き漏らしたが、趣味のひとつが日本語の勉強ということからも、やはり学者肌の商売人であろう。

私がWheldonから初めてカタログをもらったのは大学院の学生時代で、爾來35年以上にわたって、1冊の欠号もなく、もらっている。この間にカタログに載った本の数は、世界の博物館のどの鳥学文庫をも凌駕するに違いない。

ずっと昔の話だが、ある時ロシア皇帝の蔵書が売りに出されたことがある。なかには安いのがあったし（それでも学生の2か月分の生活費に相当した）、1冊くらいは皇帝の蔵書を飾っておいても悪くないと考え注文したが、売り切れた後だった。Hartert博士直筆の注釈の入った雲南の鳥の文献は手に入れたが、アメリカに留学する時、旅費がなかったので売ってしまった。最近頼んで手に入れてもらったもののひとつは、WaterhouseのIndex Generium Avium (1887)である。珍本というほどのものではないが、カタログにはめったに出ない。

顧客(customer)とは実体があってないようなものだが、ざくばらんに言うと、後払いのきく身分ということであろうか。本屋にとっては、代金の取りはぐれの恐れが少ない客である。個人相手の商売では、取り引き先の信用調査をしかねるので、前払いがふつうである。本を毎年たくさん買う人は、一定の金を相手に預けておき、注文ごとに後払いで精算すれば便利であろう。

Wheldonは一般的な博物学関係の書店だが、ロンドンにはもっと特殊な古本屋もある。例えば、ピカデリーのクオリッチ(Bernard Quaritch)は稀覯本の専門店である。10数年前、イギリスに数週間滞在した折、クオリッチに立ち寄った。店はペンション風の建物で、フリーの客は入れない。

クオリッチが扱っているのは、大部分が1冊10万円以上の本で、上をみればきりが無い。RothschildのExtinct Birds (1907)が4冊あって、値段を聞くと80万円ほどで、極上品だという(価格は当時のもの。現在は円高のうえ、稀覯本の値は相対的に安くなっているようだ)。このあたりがクオリッチでは並の品物である。

稀覯本(rare book)とは品物が少なく、値段の高い本のことだが、いくらから上というよう

な定義はない。しかし、1850年あたりを境に、それより古い本は急に品薄になり、値も上がる。例えば、R. B. Sharpe(1847-1909)のモノグラフは一級の美術品だが、高くても300万円くらいである。J. Gould(1804-1881)の初期の作品は1000万円くらいする。AudubonのThe Birds of Americaの初版(1827-38)のオリジナルは、もし出物があれば、億の値がつくであろう。

ところで、昨年とのことだが、Gould家に伝わる彼自身の蔵書がそっくりWheldonのカタログに載った。Gouldの曾孫が売りに出したもので、Gouldのフォルリオの作品17点51巻3303図版が35万ポンド(1ポンド300円で換算すると1億500万円)であった。日本で買わないかとSwann氏が手紙をくれたが、兎小屋の住人にとってとても手が出なかった。しかし、これだけの掘り出し物は今後当分望めないから、惜しいことであった。

## 特 集

# 外国出版物購入法

「地方の研究者はどうしても孤立しやすく、資料の入手も困難である。内外の研究活動について情報を提供してほしい」、あるいは、「地方にいと文献の入手がなかなか難しい。国内や海外の鳥学関係の出版物を紹介してほしい」、などといった希望が時どき編集部によせられます。

これに直接こたえることはできませんが、どのようにして近刊図書情報を得るか、また、出版物をどのようにして購入するか、という方法なら紹介することができます。今回は外国出版物の購入法について特集することにしました。

まず第1部では国内の洋書輸入業者を通じて購入する方法を、第2部では外国の出版社や書店と直接取り引きする方法(個人輸入)を紹介し、第3部では各地の人がどのようにして外国出版物を入手しているか、経験を語ってもらうことにしました。

## I. 洋書輸入通信販売を利用する

外国で近刊となる出版物の情報は出版社からのダイレクトメールや国内の洋書輸入業者が定期的に発行する近刊図書カタログなどによって知ることができる。業界大手の丸善や紀伊国屋書店、旭屋書店などは近刊洋書全般についてカタログを作成し、注文を受けている。こうした大手の書店は大学や研究所の図書館と取り引きすることが多く、個人購入者に対してきめこまかなサービスをすることは少ないようだ。この点、学術図書や生物学・自然誌図書をおもに取り扱っている中小の書店はゆきとどいたサービスをしてくれることが多い。

編集部からつぎのような内容のアンケートを発し、それに答えてもらった。カタログを請求したり、注文したりする時の参考になると思う。

### ●社名、所在地、電話番号

- 1) 取り扱っている書籍の種類。
- 2) 取り扱っている書籍の分野。
- 3) カタログ作成、発行回数、料金。
- 4) 納品方法。
- 5) 国内送料負担。
- 6) 注文から納品までの期間(在庫のないものについて)。
- 7) 代金支払い方法。
- 8) 特別割り引き。
- 9) 特別な出版物の注文に応じるか、その条件。
- 10) 探索サービスを行なっているか。補) 補足したいこと。

以下、8社(アルファベット順)の取り扱い範囲、サービスについて要約した。

●アカデミア洋書(株) ☎03-813-9805  
〒113 文京区本郷2-39-6

- 1) 洋書新本、洋雑誌新刊・バックナンバー。
- 2) 生物学全般。
- 3) 年5~6回、無料。
- 4) 書籍小包、宅配便。
- 5) 注文者。
- 6) 船便・欧約3か月、米約2か月、航空便・1~3週間。
- 7) 郵便振替、銀行振替。
- 8) 納品後1か月以内に支払いがなされる場合10%引。
- 9) 手数料などで高くなることを了解して。
- 10) 無料、ただし十分なものではない。

●(有)青木洋書 ☎03-322-2445

〒156 世田谷区松原1-58-14

- 1) 洋書単行本、雑誌、新・古全般。2) 自然誌、生物学全般、農・工・医学。3) 不定期、鳥類のカタログは特に作らず、無料。
- 4) 書籍小包(2kg以下)、宅配便。5) 注文者、ただし高額の場合は納品者。6) 船便、欧3か月、米2か月半。4か月半かかることもある。航空便2~3週間、1か月半くらいかかることもある。7) 郵便振替、銀行振替。
- 8) カタログで案内。9) 必要手数料を加算する。10) 無料。

●グリーン洋書(株) ☎044-533-0470

〒210 川崎市幸区塚越2-260

- 1) 洋書単行本新本。2) 鳥学、自然誌、生物学全般。3) 鳥学は年約5回、全分野では年60回位、無料。4) 郵便小包、宅配便。
- 5) すべて納品者負担。6) 船便・欧約3か月、米約2か月。航空便・約3週間。7) 郵便振替、銀行振替。8) 同じ本を多部数購入の時。9) 出版元など詳しい情報があれば。10) 一般的には行っていないが、依頼されればできるだけ応じる。

●(株)国際書房 ☎03-292-4951~5

〒101 千代田区神田小川町3-5

札幌出張所 〒060 札幌市中央区大通り西15丁目大通りハイム507号室 ☎011-621-3997

- 1) 洋書単行本、雑誌、新・古全般。2) 鳥学、自然誌、生物学全般、一般図書、学術洋書。3) 不定期、無料。4) 郵便書籍小包・小包、宅配便。5) 納品者。6) 船便・欧約3か月、米約2.5か月。航空便・約2~3週間(航空便送料は注文者負担)。7) 郵便振替、銀行振替、現金書留。8) 1割引き。9) 発売元の住所などなるべく詳しい書誌事項を連絡する。10) 無料。

●(財)日本野鳥の会 バード・ショップ

〒150 渋谷区渋谷1-1-4 青山フラワービル5階 ☎03-406-7460

- 1) 洋書単行本、雑誌はオーデュボンのみ。和書も取扱っている。2) 鳥学、自然誌。
- 3) 洋書についてカタログ(リスト)を今春作成予定。詳しくは未定。4) 宅配便。
- 5) 注文書。6) 船便・欧2~3か月、米2~3か月。航空便取扱いなし。7) 郵便振替、現金書留。8) 無。9) 場合によるが、鳥についての本はなるべく対応している。
- 補) 鳥についての洋書はなるべく取りそろえるようにしている。書名、出版社などがわかれば版元に在庫がある限り、なるべく取り寄せるよう努力する。

●(財)日本野生生物研究センター ブックセンター

☎03-813-8806

〒113 文京区本郷3-39-12

- 1) 洋書単行本新本、和書。2) 動・植物一般。3) 年4回、有料。ただし、よく利用する人は無料。4) 郵便書籍小包、書留、宅配便。5) 注文者。6) 船便・欧米約3か月。航空便取扱いなし。7) 郵便振替、銀行振替。
- 8) 無。9) 無。10) 無。

●(株)東西ブックセンター ☎0474-23-5963

〒273 千葉県船橋市北本町2-19-4

- 1) 洋書単行本新本。2) 生物学全般。
- 3) 年10回、無料。4) 郵便書籍小包。
- 5) 注文者。ただし5000円をこえる本については納品者。6) 船便・欧米約2~2.5か月、航空便約2~3週間。7) 郵便振替、銀行振替、現金書留。8) 鳥学会会員のかたには10,000円以上10%引きにします。9) 詳しい情報があれば。10) 無料で調べます。

●ワコー洋書販売(株) ☎03-717-9568

〒152 目黒区八雲2-22-16

- 1) 洋書単行本、雑誌、新・古本全般、和書。
- 2) 鳥学、自然誌、生物学全般、一般図書。
- 3) 年35~40回、無料。4) 郵便書籍小包、小包、宅配便。5) 5,000円以下は350円で注文者負担、それ以上なら納品者負担。6) 船便・欧2.5か月、米2か月。航空便約3~4週間。7) 郵便振替、銀行振替、現金書留。

- 8) 10冊以上まとまった注文は15%引き位。  
 9) 応じる。10) 無。  
 補) 値引は相談に応じる。

## II. 個人で輸入する

最近の円高のなかで、海外の商品を自力で購入する「個人輸入」への関心が高まっている。一般の商品だと関税や物品税などがかかったりしてややこしいが、書籍はいっさいかからないから個人輸入はやさしく、たのしい。とにかく挑戦してみるとよい。

出版元に直接注文する場合、ダイレクトメールについている注文書(order form)を利用する。しかし、1~2冊注文したくらいでは手間も手数料もかかって得にはならない。こんな時には何人かまとめて注文すると手数料が割安になるし、同じものを多部数注文すれば割引いてくれる(共同購入)。

外国にも鳥類、生物学、自然誌専門の通信販売書店がある(後述)。そこに注文すれば、いろいろの出版社の本がまとめてそろえられるから、非常に便利である。カタログあるいはリストは請求するとほとんどの場合送ってくれる。注文の時に見積もり(pro-forma invoice)を請求するとよい。そうすれば品切れのものがわかる。

見積書が届いたら、それにしたがって支払いをする。これにはいろいろな方法がある。一番確実に早いのは、銀行で送金小切手(remittance check)をつくって、見積書を同封して送る方法だ。ただ、これには銀行に2度足を運ばねばならないのと、送金手数料が高くつく(小切手1枚2,500円)のとで、小口の注文にはむかない。

つぎは、指定のクレジットカード(credit card)(外資系ならたいい可)で支払う方法。これは便利だが、口座番号を相手に教えてしまうので不安が残る。

一番安いのは外国郵便為替(postal money order)による送金である。これは少額の外国送金に適している。集配や貯金業務を取り扱

う大きめの郵便局に行き、申込書に必要事項を記入して窓口に提出すればよい。振出料金は通常為替だと1万円以下800円、5万円まで1,000円である。相手の郵便振替口座への払込為替ならさらに割安で、もしこちらが郵便振替口座をもっていれば(50円で開設できる)、相手の口座との振替ですみ、その料金は金額にかかわらずすべてたった400円である(ただし振替を利用できる国に制限がある)。ヨーロッパやアメリカには6~12日で送達される。もっと急ぐ場合には電信扱いとする(電報料金が加算される)。振替や為替(一部の国を除いて)は通信文も送ることができるので、ここに見積書番号を書いてその支払いであることを書くるとよい。しかし、為替の受領書をコピーして、見積書を同封して送金を通知するほうが確実である。

以下に外国の鳥類・自然誌カタログを発行している代表的な通信販売店をあげる。

### <イギリス>

● The Bird Bookshop, Scottish Ornithologists' Club.  
 21 Regent Terrace, Edinburgh, EH7 5BT, Scotland, U.K.

英語圏の鳥学図書新刊、生態学、行動学。自然誌をも取扱う。カタログ発行年1回。

● Wheldon & Wesley Ltd.  
 Lytton Lodge, Codicote, Hitchin, Herts., SG4 8TE, England, U.K.

自然誌全般、新刊および古本、カタログ有。

### <ドイツ>

● Albrecht Philler Verlag GmbH.  
 Postfach 2860, Stiftsallee 40, D-4950 Minden, F. R. Germany.

独語、英語の鳥学図書のカタログ発行、新本。  
 ● R. Friedländer & Sohn.  
 Dessauer Straße 28-29, D-1000 Berlin 61, F. R. Germany.

独語、英語の生物学・鳥学新刊および古本。動物学・鳥学カタログ有。

● Walter Seuffer  
 Steglitzer Damm 57, D-1000 Berlin

41, F. R. Germany.

同上。

<オランダ>

●Universitaire Boekhandel Nederland  
B. V.

1 Damsterdiep, 9711 SG Groningen, The  
Netherlands

オランダ語のほか独語、英語、仏語の鳥学  
図書を取り扱う。新本。鳥学図書カタログ有。

<アメリカ>

●Petersen Book Company

P. O. Box 966, Davenport, Iowa 52805,  
U. S. A.

鳥学書および自然誌図書の最新刊と古本、カ  
タログ有、年1回発行。

●Los Angeles Audubon Bookstore, Los  
Angeles Audubon Society.

7377 Santa Monica Blvd., Los Angeles,  
California 90046, U. S. A.

鳥学図書、新本、リストあり。

(この項 長谷川 博)

### Ⅲ. 外国出版物購入の経験と気をつけた こと

外国から直接書籍を取り寄せるには

森岡 弘之

外国の本屋に書籍を注文し送金したが、肝  
心の本が届かなかった、という苦情を時々耳  
にする。しかし、トラブルの80%以上は、注  
文のしかたが悪かったために起こる。

まず、注文したい本の題名、著者名、発行  
年、カタログ番号などを明記し、何冊買いた  
いからインボイス(invoice:請求書を兼ねた  
送り状ないし注文受書)を送れという手紙を  
出す。それに対して、品物とインボイスが同  
時に送られてくることも、インボイスだけが  
送られてくることもある。いずれにせよ、イ  
ンボイスに従って送金し、インボイスと外国  
郵便為替の支払証書のコピーを相手に送り返  
す。これで品物が届かなければ、相手が悪い。

しかし、品物があるかどうか確かめずに、  
注文書と金を一方的に相手に送りつけ、品物  
が届かないとぐちゃっでもはじまらない。まし

で、郵便為替の通信欄に注文を書いて出した  
だけでは、相手が気がつかなくても文句はい  
えない。注文書に代金をそえて申し込むやり  
方は、不特定多数相手の通信販売で、出たば  
かりの新刊書なら、この方法で注文してもよ  
い。しかし、古書や刊行後数年を経た書籍の  
注文は、インボイスを確かめてから金を払う。

第一、注文書によって何回購入しても、な  
かなか顧客として認めてくれない。顧客とな  
れば、相手に自分の口座を作ってもらっても  
も、品物が到着してから代金を払うようにし  
てもらうことも、カタログに先立って出物を  
報せてもらうことも可能である。勿論、カタ  
ログは毎度送ってくる。私の場合は、年に数  
冊購入する程度の顧客だが、代金は後払いな  
ので、金銭上のトラブルは生じない。手間も、  
注文を出すのと、インボイスと支払証書のコ  
ピーを送り返すだけで、実に簡単である。洋  
書の輸入業者の品物は、在庫品のバーゲン  
の時だけお買い得だ。なお、信用ある外国の書  
店は、カタログ値段から値引きはしない。

送金方法は、郵便局の外国郵便為替を利用  
する。銀行小切手、クレジットカード、パー  
ソナルチェックは、取り立て手数料相当額の  
不足分を再度請求されることが多いので、初  
心者は利用しないこと。

#### 私の洋書購入法

##### ■ 札 幌

綿貫 豊

札幌には洋書をおいてある書店が少なく、  
生物学関連の洋書はほとんど書店で手にと  
って購入することができません。必要な洋書は、  
普通は書店を介して注文購入しています。ま  
たは、洋書の通信販売をしている業者の発行  
するカタログを見てその業者に注文します。  
国内に在庫がない場合は海外発注となり6か  
月以上かかる場合が普通です。在庫を確認し  
てもらって、もしあったらその書店に注文す  
ると比較的早く、3-4週間くらいで手に入  
ります。メジャーな出版社の場合は書店へ注  
文した場合でも航空便サービスで早く手に入  
ることがあるそうです。注文の場合、特に通

信販売の場合、注文した本が絶版でもないのに絶版であるとの返事がきたり、冊数をまちがえて送ってきたり、ひどいときには違う本が届いたりなどのトラブルが過去にはありました。それなりの対応し、その書店、業者には2度と注文しないことです。

もうひとつ、直接出版社に注文する手があります。本を注文すると請求書がきてそれに従って送金すると船便で2-3か月で届きます。円高でするので書店などを介するよりは安く洋書が手に入りますが、手続きがやや面倒ですし、数千円くらいの本でしたら送金手数料などで結局書店を介した場合と同じくらいになることもあります。

#### ■ 新 潟 渡 辺 央

私は長岡市の博物館に勤務し、洋書購入は紹介できるほど多くありませんが、依頼に応じてお話しします。私はたいていの場合、洋書販売会社（又は取扱店）から送られてくる鳥類関係の新刊情報によって選び購入します。「世界のサギ類」、「世界のタカ類」などのような単行本や、外国の鳥類ガイドなどの図鑑類は、このような会社を通じて購入してきました。古書店から発行されている自然科学関係の図書目録の中から選ぶこともあります。また、日本鳥学会誌などに紹介される洋書類も購入の対象になります。これら単行本の類については、地方にいても販売会社などを通じて情報が入ってきており、購入は比較的楽なのですが、ただこのような購入方法では、内容が十分にわからないだけに送られてきた現物を見て失敗したということもあります。

さて、問題は外国の鳥学雑誌に出される膨大な論文の入手です。これらの中から自分の目的とする論文を選び入手するのは、語学力のない私にはかなり大変です。かつてこれらの雑誌のいくつかは、先きの販売会社を通して取り寄せていたのですが、いろいろな事情で今は休んで(?) おります。これらの外国雑誌の論文、それに日本の鳥学雑誌や専門図書類に引用されている外国文献の入手については、必要なものは山階鳥類研究所などに有

料コピーをお願いしているのが現状です。

#### ■ 千 葉 茂 田 良 光

私のはじめて外国から直接、洋書を購入してから10年ぐらになる。それより以前は専ら国内の洋書店や古本屋から購入していたのだが、絶版の洋書は国内ではなかなか入手しにくいし、なによりも自分で輸入した方がかなり安く本を入手できるのが普通なので、しだいに国内より国外に本を注文することの方が多くなった。ただし、手間の割には国内の本屋と比較してあまり安くない場合や忙しくてめんどろなときには、国内の本屋に今でも随分と世話になっている。

外国から自分で直接、本を輸入するときには少しでもより安く購入したいと思い、いくつかの（国の）カタログを比べたり、なるべく円相場の高いときに送金するように心がけている。私の経験では例えばアメリカ、イギリス、西ドイツ、オーストラリアで発行された本は、それぞれ発行国から購入したときにもっとも安く入手できるようである。が、これは新本の場合であって、古本ではそうでないことも多く、とくに安く入手できたときはたいてい発行国からではない。

本の送付はほとんど船便を指定しているが、古本屋のカタログは航空便でとりよせ、注文書の入手のチャンスを高めている。外国の古本屋のカタログは国内のものに比べ、一般に本の状態が詳しく記述されており、記述とあわないときはすぐなら返本できるのが普通である。また、イギリスのWheldon & Wesleyのものなどは資料としても有用であり、長く保存する価値があると思う。

洋書を外国の古本屋などから購入する場合、ときに著者や有名な鳥学者のサイン入りの本を入手できることがある。まれには新本でも思いもかけず、著者の署名の入った本が送られて来ることがある。これは不思議なことに名前しか知らない著者がとても身近に感じられ、その本への愛着もひとしお増すものである。最近ではSOC Bird Bookshopから入手した1986年発行の“Flamingos”に著者、Malcolm & Carol Ogilvie 夫妻の署名が扉にあり、その本のかなりの部分を読んでしまっ

た。国内洋書店からの本の購入には、この楽しみはおそらくないであろう。

■ 伊豆諸島新島

磯部 清一

洋書や外国語の論文は読むのに時間がかかるので、避けるようにしていたのですが、必要にせまられて目を通すようになり、いつの間にか読むのに抵抗を感じなくなってきました。そのような訳で、乏しい私の経験が参考になるかどうかは別として、情報の少ない島での洋書購入や文献の入手方法について、私なりの方法を紹介したいと思います。

島の本屋には外国の雑誌や洋書の類は全くありません。また、勤務先（高校）の図書購入でも、外国の専門雑誌は相手にしてくれません。結局、読んだ論文の引用文献から情報を得て、入手することになります。入手した

い本や論文をノートにまとめて書いておきます。本の場合は島の本屋でも取り寄せてくれますが、注文してから2、3ヶ月、時には忘れた頃に届きます。

文献は上京した時、地方の利用者に郵送サービスをしてくれる国会図書館を利用しています。外国の主な雑誌に掲載された論文はほとんど入手できます。欠点は時間がかかり過ぎることで、本を借り出して（1回に3冊まで）、必要手続きをして、また借り出して、をくり返すので、1日がかかります。

その他、洋書販売店のダイレクトメールのカタログから入手したり、野鳥の会の購買部も利用しています。

必要なものは入手しようと思えば、なんとかなりませんが、情報が遅れ、古いものしか手に入らないのが実状です。

B I R D F I L E

◆ 中田 千佳夫（北海道中標津町）

シマフクロウに関わって6年になります。探しはじめて2ヶ月目で初めて姿にお目にかかりました。その間に11河川、約900kmを歩きまわり片っ端からチェックした木の数は見当が付きません。

その時に感じたことは、「木がない」ということ。この木とはシマフクロウが営巣用として使える可能性のある木のことで、以後、個体の確認と生息林との関係を調べてきました。

その結果、生息林となる広葉樹林の減少と連続性のなさに心を痛めております。そこで3月より「道東の森」に関する放談会を始めました。3月26日は「道東の森とシマフクロウ」と題し、畑正憲氏と山本純郎氏を呼びました。5月15日には大阪市大の川道三枝子女史を招き「シマリスの森」を計画しております。

◆ 中井 春治（島根県大田市）

1961年より経島のウミネコの個体数や繁殖状況などを調べています。調査を始めた当時ウミネコの個体数はおおざっぱに言って5000羽でしたが、現在は繁殖地が6島にふえ、総数は約4000羽です。営巣密度は、繁殖地になりはじめてのころ1㎡あたり0.5巣前後ですが、やがて0.85巣くらいになり、そのあたりで安定するようです。昨年1月、大量の廃油が山陰海岸に漂着し、海鳥17種1745羽の死体が確認されました（島根県林政課のまとめ）。環境汚染は着実に進行しています。環境指標と

してのウミネコの価値を再認識し、今後も経島周辺のウミネコの動向を調査したいと思っています。

◆ 渡部 昌邦（ガーナ共和国クバンドゥ）

青年海外協力隊の理科教師として西アフリカのガーナにきています。赴任した学校はBishop Herman Secondary Schoolで、生徒に教えるかたわらバード・ウォッチングをしています。

今ガーナは乾季で、昨年11月からほとんど雨が降っていません。木製の家具は反り返ってしまうし、サハラ砂漠からの砂塵（ハマターン）がやってきてほこりだらけ、良いといえば喉が渇いてビールがうまいと言ったところです。

その反面、自然発火でブッシュが焼け、鳥たちが良く見えるようになりました。weavers, flycatchers, bulbulsなどが近くの林で見られます。たまには怪鳥hornbillが現われ驚かされたり、美しいparrots, kingfishersも見かけます。何といても我が家の庭のハイビスカスにやってくる、金属光沢のsun-birdsを金網越しに1mの距離で観察できるのは楽しみです。

シルク・コットンと呼ばれる大木がテニスボールほどの綿毛につつまれた種子を飛ばし始めました。ハタオリドリも巣作りに集って来ました。もうすぐ雨がやってきます。

